

平成27年熱中症による救急搬送状況の詳細

1 気温別の熱中症による救急搬送人員の状況

救急要請時の気温と救急搬送人員では、28℃を境に救急搬送人員が400人を超え、33℃台では773人もの方が救急搬送されました（図1）。

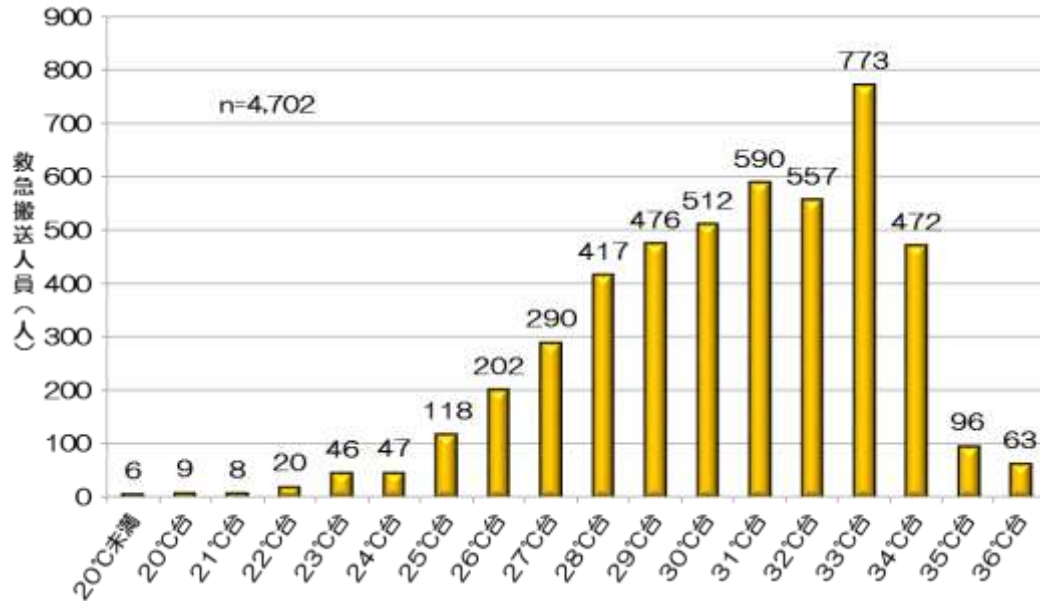


図1 気温別の熱中症による救急搬送人員（平成27年6月～9月）

2 救急要請時の気温と湿度の状況（平成27年6月～9月）

下の図は、平成27年6月から9月末までに熱中症で救急搬送された4,702人の救急要請時の気温と湿度を表したもので、赤い色が濃いほど救急搬送が多くなっています。気温34℃で湿度42%から気温25℃で湿度96%の範囲で、救急搬送人員が多く分布していることが分かります。

また、気温が高なくても湿度が高いと熱中症で救急搬送されていることが分かります（図2）。

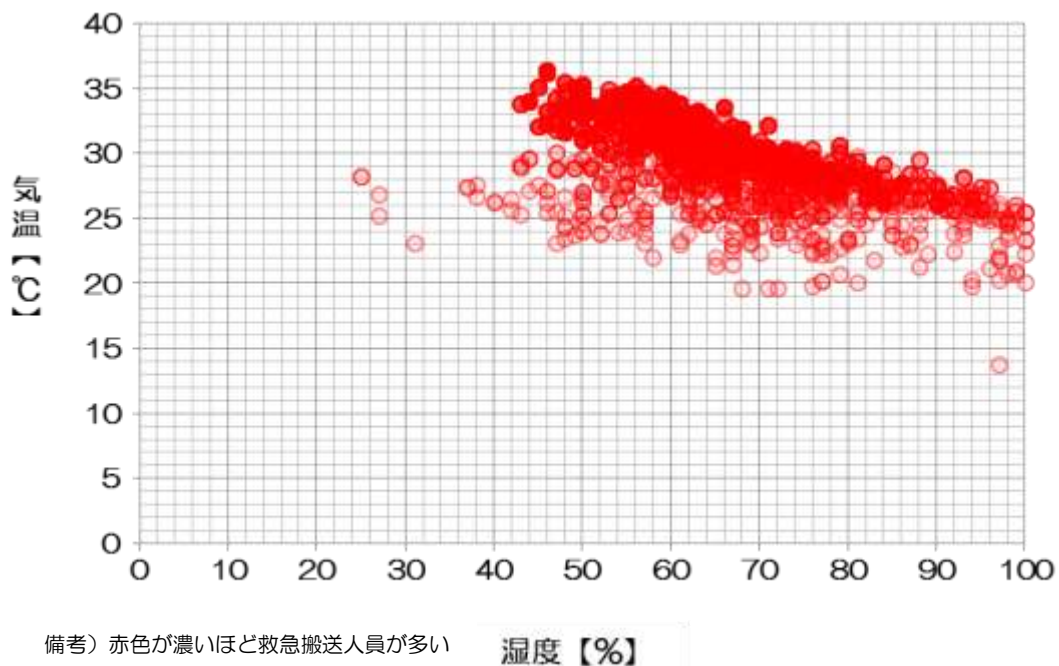


図2 救急要請時の気温と湿度（平成27年6月～9月）

3 時間帯別の救急搬送状況

時間帯別の救急搬送状況を見ると、最も多いのは13時台で460人でした。特に10時台から17時台は300人以上と多くっており、中でも12時台、13時台、15時台は400人を超えました（図3）。

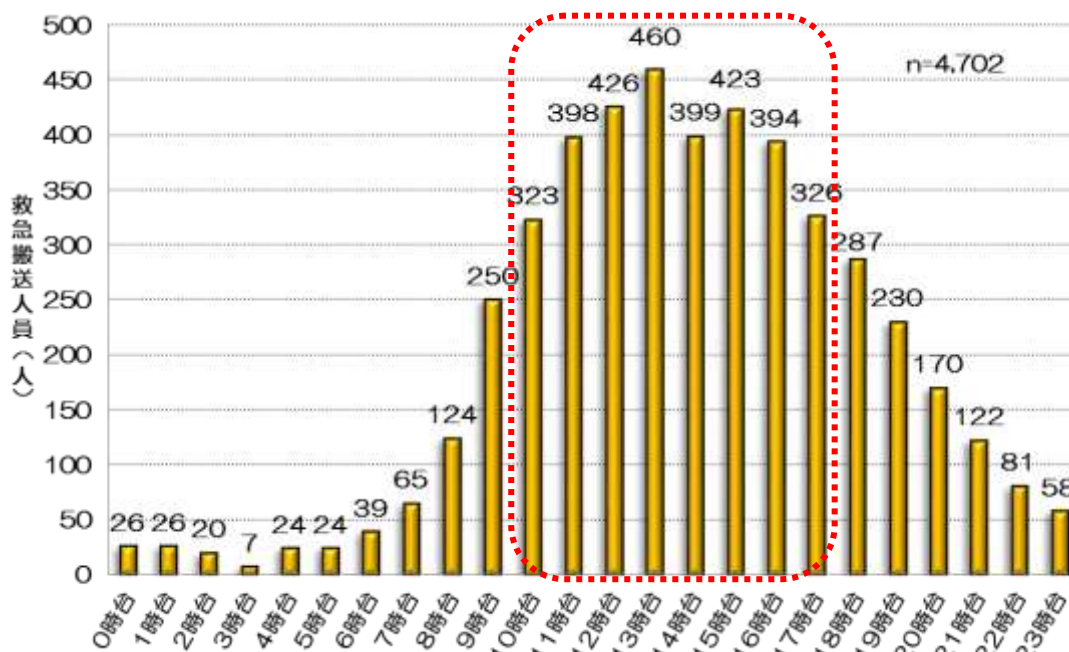


図3 時間帯別の救急搬送人員（平成27年6月～9月）

4 年代別の救急搬送状況

年代別の救急搬送状況を見ると、80歳代が942人と最も多く、次いで70歳代が867人となっており、人口10万人あたりの救急搬送人員で見ると、80歳代以上になると急激に多くなっており、60歳代以下では10歳代が最も多くなっていました（図4）。



図4 年代別の救急搬送人員（平成27年6月～9月）

年齢区分別の救急搬送状況を見ると、65歳以上の高齢者が2,330人で全体の約半数を占め、そのうち約7割にあたる1,647人が75歳以上の後期高齢者でした（図5）。

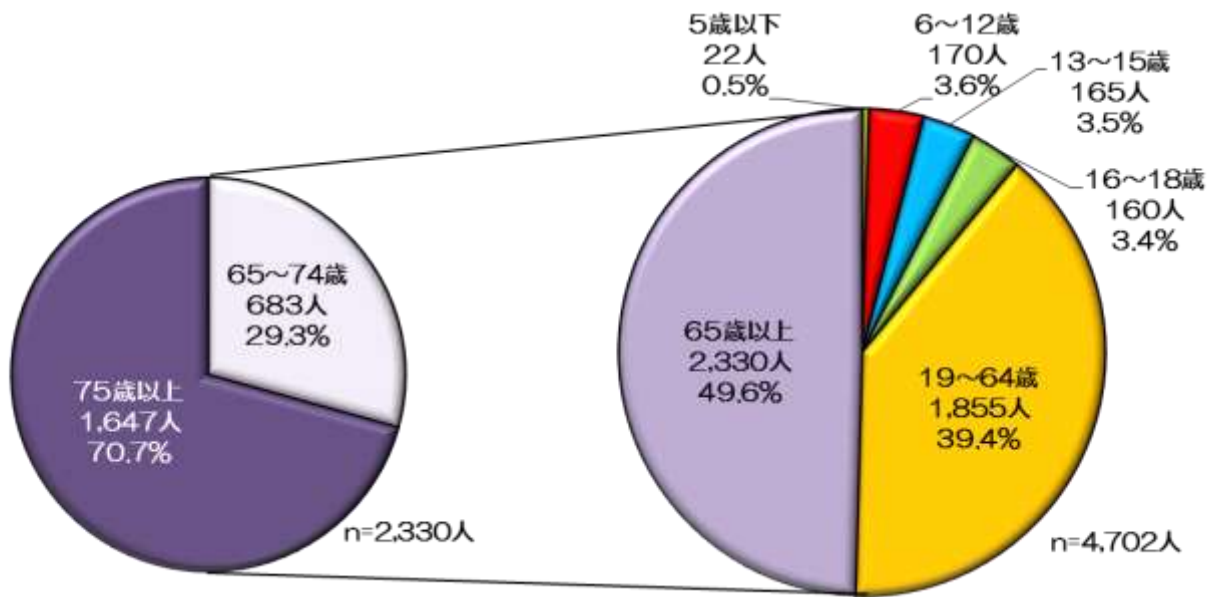


図5 年齢区分別の救急搬送人員（平成27年6月～9月）

5 救急搬送時の初診時程度

救急搬送時の初診時程度を見ると、救急搬送された4,702人のうち42.9%にあたる2,017人が入院の必要があるとされる中等症以上と診断されています。重症以上は177人で、そのうち43人は生命の危険が切迫しているとされる重篤、4人は死亡と診断されています（図6、表1）。

また、高齢者（65歳以上）は、半数以上の56.8%が中等症以上と診断され、後期高齢者（75歳以上）に限ると、58.7%が中等症以上と診断されています（表2、表3）。

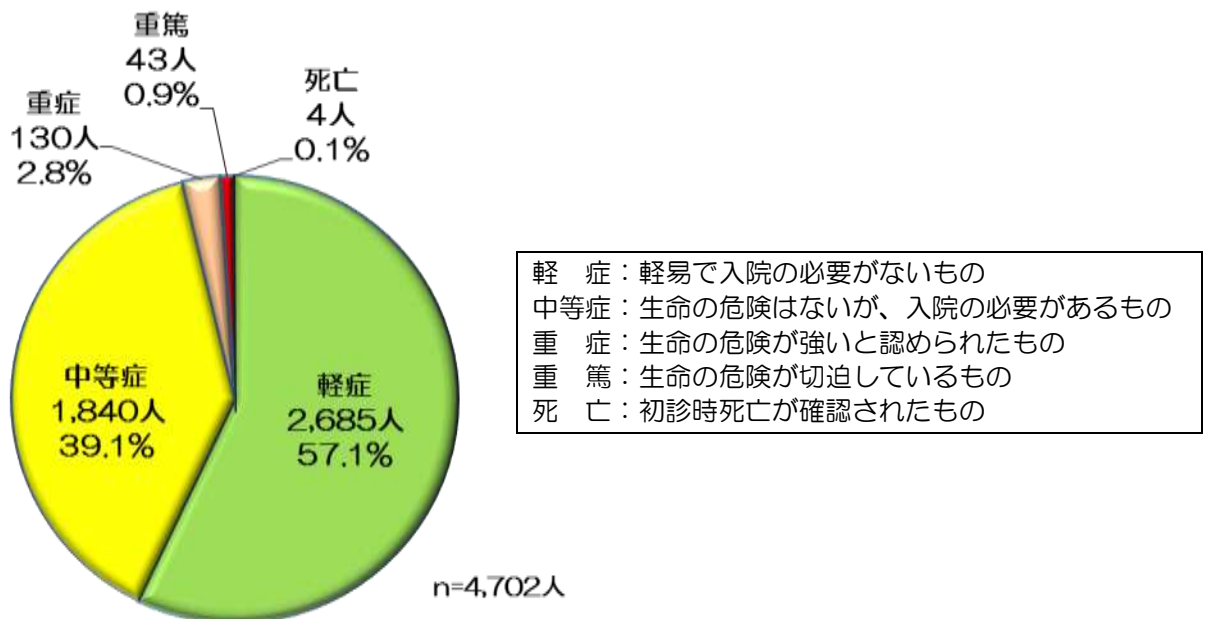


図6 救急搬送時の初診時程度別の救急搬送人員（平成27年6月～9月）

表1 年代別の救急搬送時の初診時程度と中等症以上の割合（平成27年6月～9月）

年代	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	合計	中等症以上の割合
9歳以下	65人	14人	—	—	—	79人	17.7%
10歳代	408人	95人	2人	—	—	505人	19.2%
20歳代	310人	98人	2人	—	—	410人	24.4%
30歳代	270人	113人	3人	4人	—	390人	30.8%
40歳代	295人	131人	5人	3人	—	434人	32.0%
50歳代	228人	116人	7人	7人	—	358人	36.3%
60歳代	250人	201人	27人	9人	—	487人	48.7%
70歳代	396人	419人	41人	10人	1人	867人	54.3%
80歳代	393人	508人	32人	8人	1人	942人	58.3%
90歳代	67人	140人	11人	2人	2人	222人	69.8%
100歳以上	3人	5人	—	—	—	8人	62.5%
合計	2,685人	1,840人	130人	43人	4人	4,702人	42.9%

表2 年齢区分別の救急搬送時の初診時程度と中等症以上の割合（平成27年6月～9月）

年齢区分	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	合計	中等症以上の割合
5歳以下 乳幼児	19人	3人	—	—	—	22人	13.6%
6～12歳 小学生の年代	140人	30人	—	—	—	170人	17.6%
13～15歳 中学生の年代	140人	25人	—	—	—	165人	15.2%
16～18歳 高校生の年代	123人	35人	2人	—	—	160人	23.1%
19～64歳	1,256人	549人	29人	21人	—	1,855人	32.3%
65歳以上 高齢者	1,007人	1,198人	99人	22人	4人	2,330人	56.8%
合計	2,685人	1,840人	130人	43人	4人	4,702人	42.9%

表3 高齢者の救急搬送時の初診時程度と中等症以上の割合（平成27年6月～9月）

年齢	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	合計	中等症以上の割合
65～74歳	326人	316人	32人	9人	—	683人	52.3%
75歳以上	681人	882人	67人	13人	4人	1,647人	58.7%
合計	1,007人	1,198人	99人	22人	4人	2,330人	56.8%

6 熱中症の発生場所

救急要請時の発生場所では、住宅等居住場所が2,026人で全体の43.1%を占め最も多く、次いで道路・交通施設が1,192人で25.4%を占めていました（図7-1）。

また、年齢区分別に発生場所を見ると、乳幼児（0～5歳）、高齢者（65歳以上）は「住宅等居住場所」が多くを占め、小学生となる6歳～12歳は「公園・遊園地・運動場等」が、中学生となる13歳～15歳、高校生となる16歳～18歳は、いずれも「学校・児童施設等」が最も多くなっていました（図7-2～7-7）。

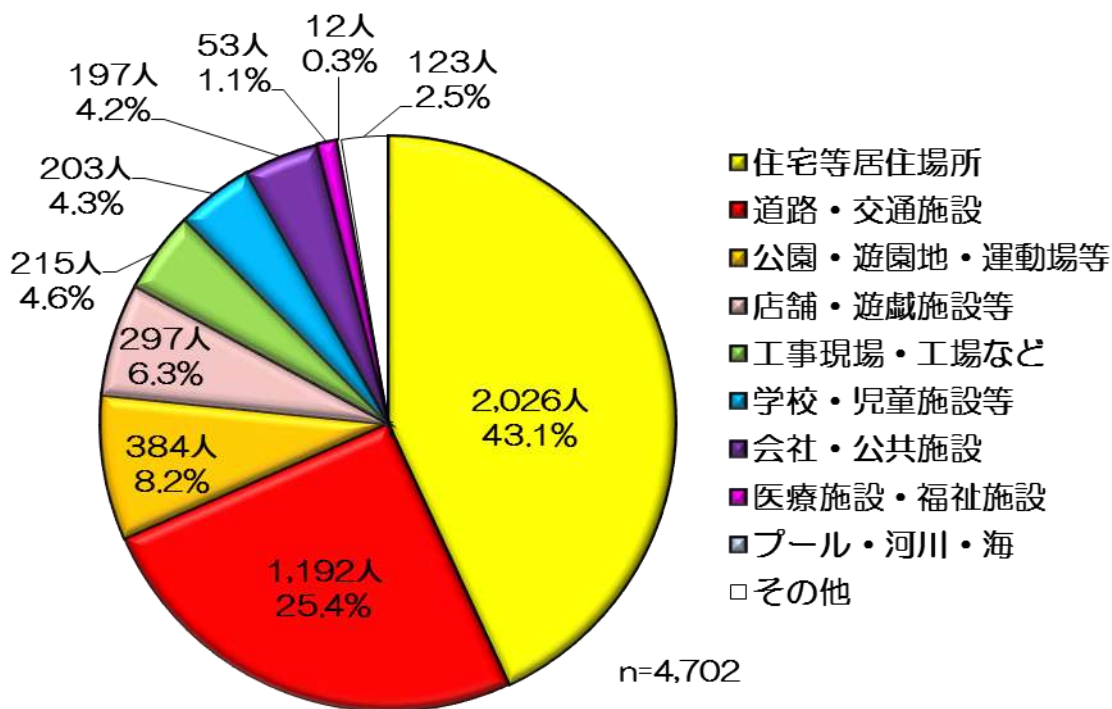


図7-1 発生場所別の救急搬送人員（平成27年6月～9月）

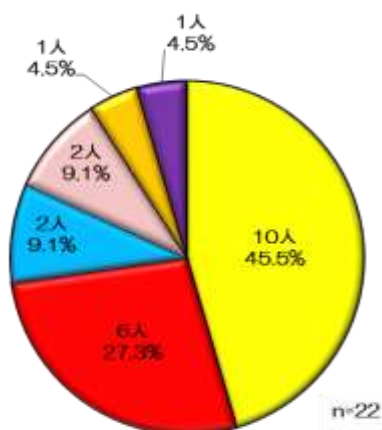


図7-2 発生場所別の熱中症による救急搬送人員
0歳～5歳（平成27年6月～9月）

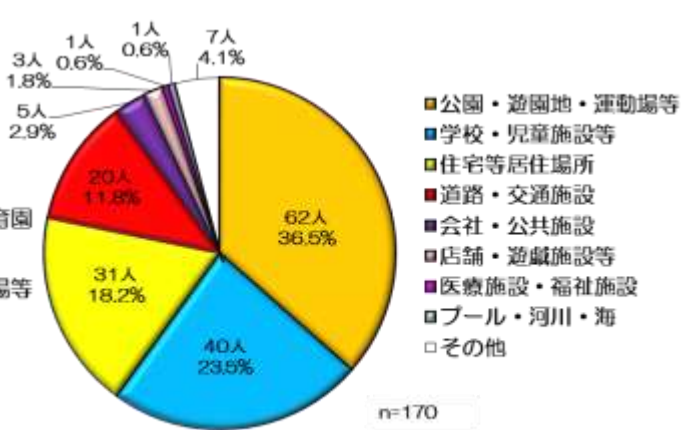


図7-3 発生場所別の熱中症による救急搬送人員
6歳～12歳（平成27年6月～9月）

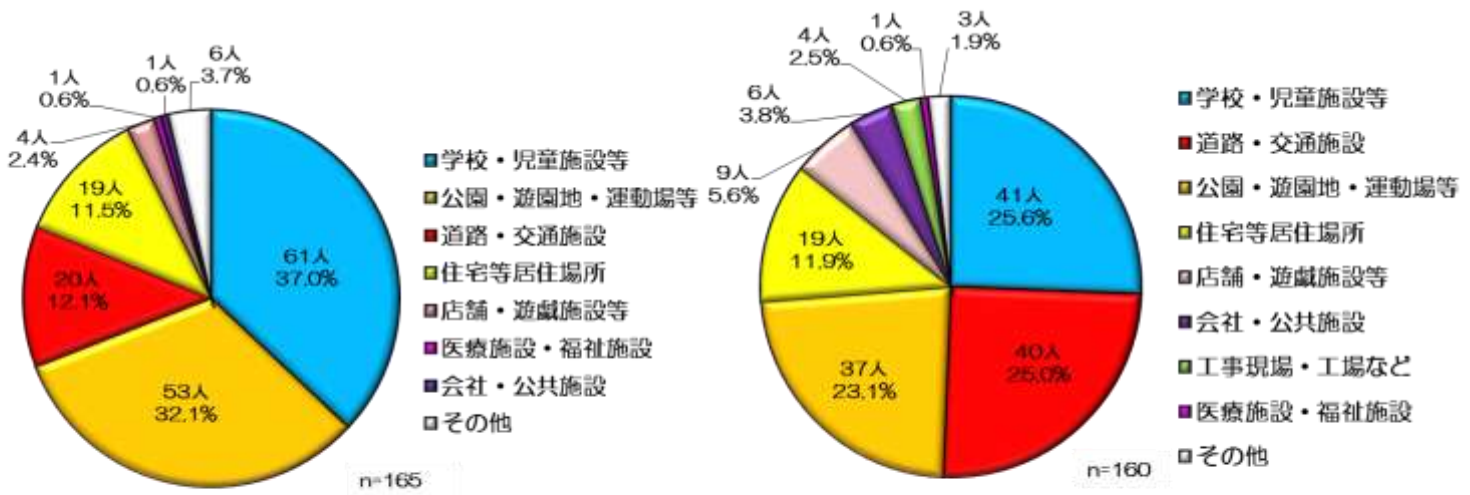


図7-4 発生場所別の熱中症による救急搬送人員
13歳～15歳（平成27年6月～9月）

図7-5 発生場所別の熱中症による救急搬送人員
16歳～18歳（平成27年6月～9月）

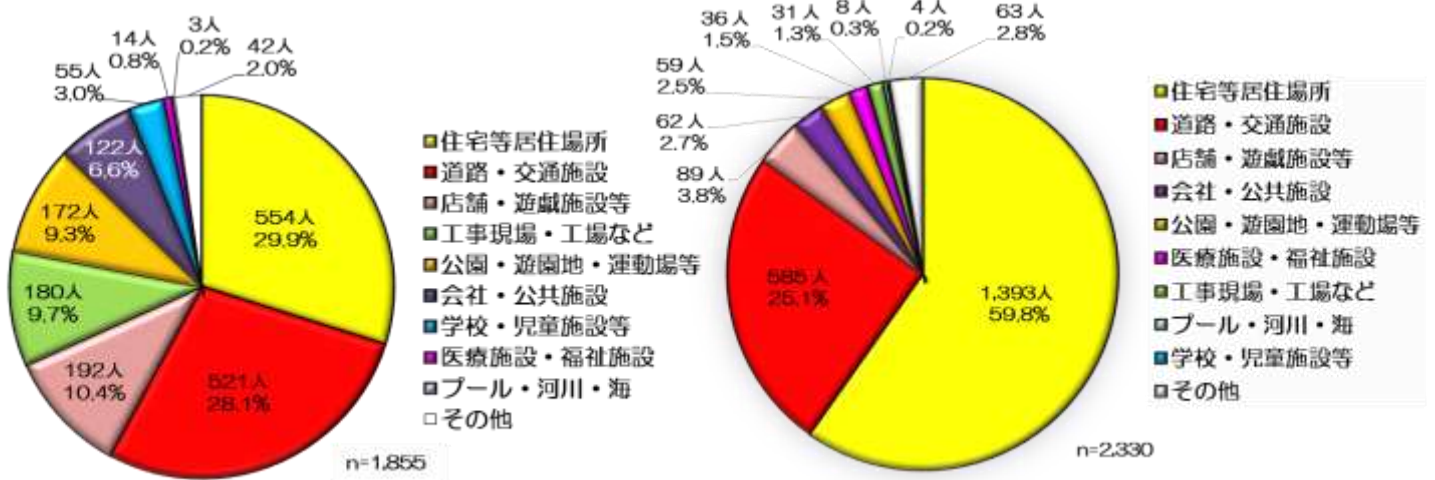


図7-6 発生場所別の熱中症による救急搬送人員
19歳～64歳（平成27年6月～9月）

図7-7 発生場所別の熱中症による救急搬送人員
65歳以上（平成27年6月～9月）

7 過去5年間の年齢区分別発生状況

過去5年間の年齢区分別の救急搬送人員では、平成27年は前年に比べ、全ての年齢区分で増加しました。特に、65歳以上の高齢者は6割以上も増加しました（表4）。

表4 過去5年間の年代別救急搬送人員（各年6月～9月）

年齢区分	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	前年比
5歳以下	25人	28人	26人	16人	22人	37.5%
6～12歳	133人	143人	138人	152人	170人	11.8%
13～15歳	153人	157人	181人	162人	165人	1.9%
16～18歳	195人	122人	166人	136人	160人	17.6%
19～64歳	1,865人	1,593人	2,195人	1,465人	1,855人	26.6%
65歳以上	1,700人	1,448人	2,256人	1,436人	2,330人	62.3%
合計	4,071人	3,491人	4,962人	3,367人	4,702人	39.6%